

一切が自由となりて滝落つる

山田真砂年

滝となる元を辿れば、何年もの間伏流水として地下を流れていた水である。掲句は、その水が崖に達したとき何もかも取っ払ったかのように自由になつて落ちると言う。私達は、高い崖の上から落ちてくる滝を見て、その壮大な眺めに涼しさを覚えるが、その涼しさこそが滝の自由。滝の姿を見据えた句である。

(俳壇ワイド作品7句 「八月や」より)